

教員室で飼育中！？の癒やし系アザラシロボット「パロ」 認知症緩和にも期待！！

「パロ」が認知症緩和

南砺市出身の富山で事例紹介 開発者柴田さん

介護保険の適用を目指す動きが出ているアザラシ型癒やしロボット「パロ」の開発者で、産業技術総合研究所（茨城県つくば市）上級主任研究員、柴田崇徳さん（南砺市城端地域出身）が25日、富山市の富山国際会議場で講演した。パロのセラピー効果によって国内外の認知症患者の症状緩和につながった事例を説明した。

国の総合特区認定を受けている岡山市は1月から、市民がパロを借りる際に介護保険を適用している。本人負担を



アザラシ型癒やしロボット「パロ」のセラピー効果を紹介する柴田さん＝富山国際会議場

1割に抑え、1カ月3千円で借りられるようにした。同時にパロのセラピー効果の検証調査も実施。結果を添え7月ごろ、介護保険が適用される福祉用具としてパロが認めら

れるよう厚生労働省に推薦する。この日は介護・産業用ロボットの性能を紹介する「ロボティクス・メカトロニクス講演会2014」が開かれてお

り、柴田さんは米国で28人の認知症患者を対象に行った調査結果を紹介。パロ導入前、叫んだり暴れたりする問題行動があったのは20人だったが、導入後10人に半減したほか、28人中、うつ病を患っていた13人のうち6人は症状が緩和したとした。

南砺市と共同で実施した調査結果も説明した。市内の認知症患者を対象にし、ナースコールの回数や問題行動の減少、家族の介護負担の緩和が確認できたとし、「在宅で長期の介護が可能になり、施設に入所した場合に比べて経済的負担も軽減できる」と述べた。

6月中旬に米国のホワイトハウスで、パロのセラピー効果などを紹介する講演と、パロのデモンストレーションが行われることにも触れた。